



安八豪雨 (9.12豪雨災害)

昭和51年(1976)9月12日

9月12日に岐阜県安八郡安八町の長良川堤防が決壊したことから、この日付で呼ばれていますが、決壊箇所の地名をとって「安八豪雨」ともいわれます。河川整備が進む中で、一級河川の堤防が決壊したことは、関係者に大きなショックを与えました。

昭和51年9月7日から岐阜県内で降り始めた雨は、台風17号の影響を受けて、翌9月8日から14日にかけて、1,250mmという記録的な豪雨を降らせました。岐阜県の長良川流域では、昭和34?36年の3年間連続して大規模な洪水・降雨を経験していますが、1日あるいは2日間の最大雨量や総雨量(忠節上流)など、いずれも過去の出水をはるかに超える記録となっています。水防活動は木曾三川の木曾・長良・揖斐川および支川の各所で活発に行われましたが、9月12日午前10時28分、長良川右岸の安八町森部で堤防が50mにわたって決壊しました。決壊した堤防から流れ込んだ水は瞬く間に広がり、約1,200世帯に浸水被害を及ぼしました。

木曾三川と呼ばれる大河

長良川の堤防が50mにわたって破堤。



県名	死者 (人)	行方不明 (人)	負傷者 (人)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	全壊・流失 (戸)	半壊 (戸)
岐阜県	8	1	22	24,209	51,276	21	133
愛知県	1	0	37	461	13,488	14	435
三重県	1	0	3	1,258	12,988	10	8
計	10	1	62	25,928	77,752	45	576

東海三県の被害総額
約716億円
(現在の価値に換算)
 ※約575億円(当時)
 ※わが国の災害誌 第3編